

ニイガタ子ども会

No. 116



第四十八回全国子ども会中央会議・研究大会

「自然との共生・未来に贈りたい環境」

子どもたちに残し・伝えたい自然をなごやから！

新潟県子ども会連絡協議会 副会長 岡田政枝

今年の全国子ども会育成中央会議・研究大会が、二月二十日～二十一日の日程で、愛知県名古屋市中区役所ホールで開催されました。全国から五四九名の子ども会に関わる方々が集まりました。新潟県からは役員と受賞者あわせて七名が参加しました。長年子ども会活動にご尽力されました、新潟市の反町様、上越市頸城区の上野様ご夫婦、三条市の武士侯様に全子連表彰が授与されました。

開会式では文部科学副大臣から体験活動の重要性について「近年は、都市化により、地域とのつながりが希薄になり、これまで身近にあった遊びや「本物」を体験する機会が減少している。体験活動は、自然・文化・芸術・科学などに直接触れるものであり、人づくりの原点である。未来を担う青少年が、その人間的成長に不可欠な体験を経るためには、教育活動の一環として、社会総がかりで体験活動を実施し、子どもたち自身が体験活動の主体となることが重要である。」とお話がありました。

また、愛知県知事は「祝辞の中で、『愛知県では、毎月十九日を『子育て応援の日・はぐみんデー』と定め、家

庭や地域、職場で、県民一人ひとりができることから子育てを応援していく」という取組を進めている。家庭では、父親も子育てや家事に積極的にかかわっていく。職場では、男性も女性も仕事と家庭の両立ができるような環境を作っていく。地域では、子育てを終えた地域の先輩たちが、若い家族の子育てを手助けしたり、相談に乗るなどサポートしていく。このような取組を積極的に進め、社会全体で子育てを支えていくことを呼びかけている。」など社会全体で子どもを育てることの大切さを述べておられました。

記念講演では、動物写真家 小原玲氏より、「レンズから見た自然」子どもたちへのメッセージのテーマで講演をいただきました。

最終日の分科会報告では、「自然との共生・未来への提言」として、次のような報告がなされました。「幼児期の自然体験が子どもの感性を育てる。自然が無ければ人間は生きられない。幼児期に自然体験を充分にした子どもと、そうでない子どもでは、学力や、社会人になってからの人間性・社会に順応する能力にも差が出る。しかし現在、親自身の自然

体験が少なく子どもに自然体験をさせられない現実がある。これを補うのが子ども会活動である。子ども会に参加しよう！」

「人類は生命の全てが地球の仕組みによって支えられている。この事を知ると地球の仕組みに反することは成功しない。一時的によくて、長続きしない。この事を学ぶことが大きな視点で物を考えられる頭を作り、そしてそのような生き方が幸せな人生をつくり出す、このような考えは充分に自然体験をし、自然から学び、自然の法則を理解することから生まれてきます。」等の報告がありました。これからも全国子ども会育成中央会議・研究大会が益々発展することを祈念し大会報告と致します。





子どもは大人の背中を見て育ちます 子どもの姿は、大人の姿

新潟県少年自然の家 指導課長 平野 智 樹

◎はじめに

おかげさまでもちまして、今年度も学校を中心として、多くの団体様から当施設をご利用いただきました。心から感謝申し上げます。また、来年度の利用申込みも順調に進んでおり、併せて御礼申し上げます。

今年度は、最終的に三万人弱の利用者総数になる見込みです。来年度利用事前申込みにおきましても、現段階で二万人強、最終的には今年度同様で三万人弱の利用者総数になると見込んでいます。

さて、突然ですが皆さんはこの三万人という数字をどのように思われるでしょうか。多いと思われませんか、それとも少ないと思われませんか。

◎少子化を実感

実は、今年度三万人弱の利用があったとはいえ、総数としては昨年度よりも三千人程度減少しているのです。利用団体数としては、大幅な減少はありません。つまり、各団体自体の規模が小さくなっているということなのです。

小学校の例を上げれば、
・昨年度よりも二十名少なくなった

学校

・児童数が十名以下になり単独での利用申込みができない学校

・児童数減のため、五・六年生合同の隔年活動にした学校

等がありました。小学校がこのような現状であれば、当然中学校も同様です。また、スポーツ少年団やボーイスカウト等の社会教育団体も同じような状況が見られます。

このような実態から、私は現在、急激な少子化を実感しています。

◎少子化に伴う子どもの変化

では、子どもたちは少子化という環境の中、どのように育っているのでしょうか。

「素直で、元気がいい」

「人なつこく、いたずら好き」

「好奇心旺盛で、わんぱく」

「シャイで、照れ屋で泣き虫」

当所で活動する子どもたちを見たり、接したりしている感想です。

「あれ？もしかして、これは遙か昔の自分たちのこと？」と思いませんか。

結論から言えば、「子どもは子ども、今も昔も変わりない」のです。

確かに、学校や家を離れた自然に恵まれ、楽しいことだけでなく、様々な制限もある非日常的な環境での共同生活が、子どもたちの「普段の自分」を変えているのかもしれない。しかし、その場に応じた「普段の自分」を変えることは、子どもたちにとっては決して簡単なことではないと思うのです。とすれば、私が見ている子どもたちの姿は、素の姿であり、「今も昔も変わらない子ども」ではないのでしょうか。つまり、少子化だからといって、「子どもの本質まで変えるような大きな影響はない」と思うのです。

◎環境は確実に変化

年配の方が「今時の若い者は」と言いますが、実は言っている本人が若者の時に「今時の若い者は」と言われていたりします。また、時代々々に応じて、若者の態度や言動から「新人類」「ゆとり世代」などと表現します。これは、時代背景がそれぞれ異なっているからこそその発言であり、表現です。つまり、子どもの本質は変わらずとも、子どもたちには今の時代があり、以前とは違う今の環境があるのです。そして、その環境は間

違いなく大人が築いているのです。少子化という時代だからこそ、大人が整えるべき環境があるのではないのでしょうか。

◎大人が率先して示範を

昔から、「子どもの姿をみれば、親の姿がわかる。」などと言われています。それは、当所において言い換えれば「子どもたちの活動の様子を見れば、その引率者の指導や態度がわかる。」となります。当所に勤務するようになり、このことが間違いではないということを確認しています。

やはり団塊の世代でも、少子化でも子どもを育てるのは、大人であり、子どもたちが、大人を範とできる環境が重要なのではないのでしょうか。

◎おわりに

子どもの指導で常識的に「当たり前前」のことを当たり前前に「悪いことは悪い、良いことは良い」と言うことがありません。ただ、それは私が思う「当たり前前」や「悪いこと」「良いこと」であり、相手の「当たり前前」や「悪いこと」「良いこと」ではないかもしれないと考えさせられる事があります。世の中の常識に「人それぞれ」などということはないと思いたいのですが、大人の言動ですら「えっ？」と眼や耳を疑うことがあります。その言動を子どもがまねしたら…と心配することはお節介でしょっか。

子どもは大人の背中を見て育つのです。大人が範となれば、きっと子どもは、良き大人になるのです。

上越地区

夏のお楽しみ会

上越市三和区神明子供会

五年 北村 玄太

今年の夏の子供会行事は、神明会館でおとまり会でした。

まず始めに夕ご飯のカレーを作りました。ご飯は、飯ごうを使って外でたきました。みんなで、たき方の話をききました。ぼくは米に水を入れるのがむずかしかったです。

次に、カレーの野菜切りをしました。たまねぎを切る時には、目からなみだがすく出てきて、目がすくいたかったです。その後、にんじんを切ったのですが、けっこう、かたくて切るのがむずかしかったです。大人の人にアドバイスをもらいきれいに切れたので良かったです。



サラダを作る時には、レタスを半分に切る時、すくかたくて上手にできませんでした。大人の人のにおさえてもらいながらやって半分の半分をみんなで食べやすくして、うまくできてうれしかったです。

夜にみんなで作ったカレーとサラダを食べました。ほんのひとりで食べてカレーが、すくおいしくて、サラダは、ぼくが苦手でも、みんなで作ったサラダはおいしかったです。

夜ご飯が終わって、みんなで遊びました。夜は花火をしました。ぼくは花火をやるのが、ワクワクしてました。手もち花火の時、火がいつ来るのかわからなくて、急に花火がパチパチといて、その時はすくビックリしました。

花火が終わると、アイスを食べました。友達と食べておいしかったです。アイスが残ったので友達といっしょに食べました。

夜は、みんなでねる時、夜中までおきて友達としゃべりました。友達五人いて、先にぼくがねてしまいました。

毎年、夏の子供会がありますが、また、みんなと楽しくあそべて、会館でおとまり会したいと思いました。思い出にのこりました。

中越地区

心に残る交流会

十日町市子ども会

六年 島田 春

私は今回の交流会がとても心に残っています。その中でも心に残っているのが、寝る前のことです。

寝る前は、トランプをしたり、おやつを食べたりしていました。私たちは、その前からあだ名を決めていたので、みんなで呼びあつたりプロフィール帳を書いてもらったりしてとても楽しかったです。宝木塚の子だけではなく、十日町の子ともこの交流会を通して仲良くなれたと思います。

次の日の朝の「早起きは三文の徳」に出るために、みんなで「起こしてね」と言い合い、ちゃんと起きられたので良かったです。みかんをもらえてうれしかったです。花火もとてもきれいでした。

この交流会はスキーのことも学べたし、宝木塚の子とも仲良くなれたのでとてもいい経験になりました。



交流会での思い出

十日町市子ども会

六年 高橋 ゆうな

私は今回の交流会「雪体験ツアー」で思い出に残ったことが二つあります。

一つ目は部屋でのことです。私の班は七人でした。なので、けっこう騒がしかったです。みんなでトランプをしたり、おやつを食べたりしました。楽しかったです。

二つ目はスキーです。私の班は、十日町四人、宝木塚二人の六人班でした。宝木塚の子が思っていた以上に上手でびっくりしました。そして私は、パラレルができるようになったのでした。

今回の交流会で、私は二つの目標を持っていました。一つは「東京の子と仲良くなる」。二つ目は「スキーを上達させる」です。この目標を二つ果たすことができて良かったです。夏からはもう出られないけど、これから中学校での交流で生かせるといいなあと思います。

下越地区

町内行事に参加して

新潟市竹尾三丁目子ども会
六年 加藤 楓花

私は、一月十七日に町内の「カルタ大会」に参加しました。竹尾三丁目の幼児から大人までが、楽しくカルタやビンゴなどをして過ごしました。

カルタでは、幼児・低学年・高学年に分かれ、大人の方には幼児と一緒に遊んでもらったり、老人会の方からは、読み手にまわってもらったりしました。「ハイッ」という声になりひびき、とても楽しくできました。低学年と幼児も別々でカルタを楽しんだり、みんなでトランプをして遊んだりしました。大勢で行ったババぬきはとても楽しそうに見えました。

次に、ビンゴゲームをしました。ビンゴではおかしを景品を終わった人からもらえるというルールでした。リーチになると、そこらじゅうから、「リーチになった!!」という声が聞こえ、とても盛り上がりしました。景品を選ぶときには、みんなとても迷っていました。

ビンゴが終わると、もらった景品のおかしを食べたり、町内の人からもらったシュークリームを食べたりしました。



べたりしました。仲のいい友達と一緒にしゃべりしながら食べたおかしはいつもよりおいしく感じました。

食べ終わってからも、カルタやトランプ、ウノなども始め、いろんな遊びをしました。町内の人たちとカルタをすると今まであまりしゃべったことのない人ともしゃべったりできるので友達が増えるいい機会になったと思います。

私は今年で卒業してしまうので、高学年として参加するのは、最後になってしまいます。来年はまだ妹が小学生なので一緒に参加して、読み手や保護者の方のお手伝いなどを町内行事を盛り上げていきたいと思っています。

佐渡地区

楽しかったお楽しみ会

うきがめ子ども会
六年 福井 雅也

十二月二十五日うきがめ子供会でお楽しみ会を行いました。ゲームは、かくれんぼ、たすけ鬼、ハンドベース、みかんゴルフ、風せんパレーをやります。あみだくじでチーム分けをしました。かくれんぼでは、少しズルをしてかくれてはダメな所において、みつかりませんでした。その後たすけ鬼をし、おやつタイム。康太さん、檀さん、ぼくでおやつを交換して食べました。ハンドベースはチームではなく女子対男子でやり男子が圧勝でした。みかんゴルフはお世話係の清水のおじさんが考えたゲームです。大きい紙に点数が書いてあり、木の棒でみかんを転がして点数をきそいます。ぼくはダメでしたが同じチームのさきさんが高い点数で一位



そして最後の風せんパレーも一位でした。いよいよ表しよう式。ぼくたちのチームが優勝でした。ぼくに続いて最後のお楽しみ会でしたが、優勝できてよかったです。うきがめ子供会の方々と、そしてお世話係の清水のおじさんのおかげで、とても楽しいお楽しみ会になりました。

思い出に残ったクリスマス会

うきがめ子ども会
六年 桃井 花楓

私たちが住む地域では、一年間に三・四回お楽しみ会があります。昨年最後のお楽しみ会がクリスマス会になりました。

私たち、うきがめ子供会は、計十人しかいません。その私たちのお世話をしていてくれる人が清水さんです。通称「おっちゃん」です。おっちゃんは何年も前から一緒に一年間の行事を決めたり、ゲームの内容を考えたりしてくれています。

クリスマス会では、みんなで助け合いにやハンドベースボールをして、時間が経つことも忘れて夢中で遊びました。景品もあり、私はボールペンをもりました。今でも大切に使っています。そして、私と五年生の女の子が選んだおかしとジュースを飲んで楽しいクリスマス会が終わりました。

私の弟と妹にも、このうきがめ子供会で私のように楽しい思い出をたくさん作ってもらいたいです。学校では習わないこともおっちゃんに教えてくれるので私はうきがめ子供会のメンバーで本当に良かったと思います。



平成二十六年度

文部科学省社会教育功労者 表彰授賞を受けて

武士俣 昭 司

昨年五月十八日新潟県子ども会連絡協議会の総会で、役員の定年を迎え会長を退任させていただきました。平成十八年五月の総会で会長に就任させて頂いて以来約十年、県子連役員、会員の皆さんに支えられ、その任を果たすことができたことにこの場をかりて厚く御礼申し上げます。

新潟県子ども会連絡協議会、新潟県の推薦を頂き、昨年（平成二十六年）十二月五日、文部科学省講堂に於いて文部科学大臣表彰「平成二十六年度社会教育功労者表彰」を賜りました。また、授賞式では、全国の受賞者を代表して受賞者代表挨拶を仰せつかりました。

私の子ども会育成活動は、平成元年三条市子連の事務局長にはじまり二十六年が経ちました。その後、三条市子連会長、中越地区子連会長、県子連会長になり、関東甲信越静地区子ども会育成連絡協議会会長、公益社団法人全国子ども会連合会理事などさせて頂きました。子ども会育成活動に關わった当初は、ここまでの深くその任に關わるとは自分でも思っていないでした。それが出来たのも県子連役員はじめ会員の皆さんの支えがあったからです。心から厚くお礼申し上げます。私が会長に就任した頃から、子ども会を取り巻く環境が大きく変わり、子

ども会の果たす役割も大きくなって来ていました。単位子ども会、市町村子連、県子連の位置づけと組織の一体化（社）全国子ども会連合会と関わりも重要になってきた時もありました。保険法の改正により、各県子連が独自でやっていた安全会見舞い金制度ができなくなりました。PTA・青少年団体共済法ができ、文科省の指導で全国を一律にした共済事業を平成二十四年から認可を受けることが出来ました。社団法人も新法になり、一般社団法人が公益社団法人かと言うことになり、平成二十五年に内閣府の認証を受け、公益社団法人全国子ども会連合会になりました。その間、全国子ども会連合会の理事として、共済事業・安全会運営委員長として関わり、認可までの仕事をさせていたいただきました。関東甲信越静地区の会長としてその任を果たすことが出来ましたことは、感慨深く誠に光栄に存じて居ります。

本来子ども会育成活動は、子どもたちに社会性を身に付け、次代を担う子どもたちに育つて欲しいと私は子ども会育成活動をやってきました。それは健全育成活動だけでなく、地域社会で社会教育の充実と、県が推進する「社会全体で子どもをはぐくむ運動」を推進する一翼を担うのも子ども会活動の

果たす役割と思って居ります。

昨今、子どもたちを取り巻く環境は急激に変化しており、日々報道される新聞、テレビの内容には心痛むものが多々あります。このような世相の中で、地域社会の全ての大人が子どもたちの豊かな人間性を育み、夢と希望を持つて逞しく生きる社会を構築していくことが子ども会育成者に課せられた責任でないでしょうか。

この受賞を新たな出発点と受け止めこれからも関係者ご手を携えながら、後進の指導を含め、これからも子ども会育成活動に關わっていききたいと思ひます。

謝 辞

受賞者を代表して一言御礼申し上げます。

本日ここに、私たちは、栄えある文部科学大臣表彰を賜り、光栄に存じます。心より厚く感謝御礼申し上げます。

私の活動は、子ども会育成活動を通して、子どもたちに社会性を身に付け、次代を担う子どもたちに育つて欲しいと、育成活動をやってきました。

それは、育成指導だけでなく、地域社会で社会教育の充実と、社会全体で子どもをはぐくむ運動を推進してまいりました。一人ひとりの大人が地域の子育てサポートとしてお役に立つこともその一つでありましよう。

受賞者の皆さんもそれぞれ分野、立場で

ご活躍され、本日、この日を迎えられたと存じます。

今、改めて考えてみますと、私たちは、社会教育の重要性から、地域社会の教育力の向上を目指し、県及び市町村の教育委員会・学校・公民館などの関係機関や、地域の方々と連携を図り、また、世代を超えた様々な声を聞きながら、暗中模索で歩みを進めてまいりました。その間、私たちは多くの方々のお力を借り、支えを頂き、その豊かな人間関係があったればこそ、今があると思ひます。

昨今、私たちを取り巻く環境は急激に変化しております。日々の報道される新聞・テレビの内容には、心痛むものが多々ございます。

このような世相の中で、地域社会を構成する老若男女の全てが豊かな人間性を育み、夢と希望を持つてたくましく生きる社会を形成して行くための手だてを講ずることは、私たちに課せられた責任でございます。

そのために、社会教育の担うべき役割は、今後ますます重要であると感じて居ります。

私たちは、今回の受賞を新たな出発点と受け止め、それぞれの関係者と手を携えながら、後進の指導を含め、これからも社会教育の充実発展と、それを基盤とした豊かな地域づくりを努めてまいります。

本日は身に余る賞を賜り、誠に有り難うございました。

平成二十六年十二月五日

受賞者代表 武士俣 昭司



平成二十六年度
社会教育功労者表彰式

全国子ども会連絡協議会表彰を受賞して



子ども会活動を振り返って

新潟県子ども会連絡協議会

前事務局長 反町 幸男

私と子ども会との関わりは、平成元年長い単身赴任から自宅通勤となったこの年、町内の順番で役員となり子ども会の担当をしたことでした。

当時の子ども会は、ラジオ体操・プール遊泳その他の行事でした。何とか子ども中心の活動を考えて、約百五十人の小学生を五班に分けて予算配分をして、活動することになりました。反対の声もありましたが三年くらいで定着し、班活動では七夕、映画会、クリスマス、おもちゃづくり等子どもの企画で育成者の援助のもとで、行事を実施しました。

例えば、ラジオ体操の出席の印押し、参加賞の買出しと配布を六年生が担当しました。

全体活動では、新一年生を迎え六年生を送る会は五年生が企画・運営をしました。夏祭りでは各班で遊びコーナーを設け、祭りを盛り上げ子ども会活動の一つの型が出来上がりました。

中・高校生も夏祭りには、ボランティアとして参加しました。これらの活動等子ども会だよりを発行して、地域の理解も得ました。

子どもたちの話し合いは、時間が

かかりましたが、「手を離せ、目を離すな」を心して、子どもたちを見守り活動を支援しました。

また、平成六年から新潟市子連、県子連理事、事務局に関わり、理事の皆様からは、総務、指導研修、安全、広報の各部に分かれて県子連の基盤づくりを、専門委員からは問題点の検討をし、県子連の進展の提案をしていただきました。

関プロ育成研、関プロJ大会、全国子ども会中央会議、創立三十周年記念等、各部の理事の皆様との企画・運営によって展開し、新潟方式と言われるようになりました。

これらの各種の事業に県子連事務局として関わり、会長及び理事の皆様のお力添えにより、大会等を無事に終了することが出来ました。

この度、名古屋市での全国表彰を受けましたことは、関係各位のご指導とご支援によるものと、心から感謝申し上げます。最後になりましたが、県子連のますますの発展と役員の皆様のご健勝を祈念いたします。お礼のことばといたします。



子ども会活動を振り返って

頸城子ども会連絡協議会

顧問 上野 一美

このたび、全国表彰を頂けましたことは、多くの方々のご指導、ご支援のお陰と感じております。深く感謝申し上げます。

振り返ってみますと、今から二十数年前に地区子ども会の指導員に誘われたのがきっかけで今に至っています。こんなに長く子ども会の活動を楽しく前向きにやってこれたのは理由があります。

それは、ジュニアリーダーとの出会いです。

私が上越地区子連役員になった時ジュニアリーダー研修会と子ども会交歓大会の担当をさせて頂きました。今でもその時の感動と衝撃を思い出します。

ジュニアリーダー研修会では、シニアリーダーが何回も集まり事前打ち合わせをし、当日の閉会式では涙を浮かべている。感極まりワンワン泣いている姿すらあった。それに参加した小中学生が、次の子ども会交歓大会のスタッフとして、同じように事前打ち合わせをして当日を迎えました。そして閉会式で涙を浮かべながら、参加者にアドバイスを話す。

参加した小学生に感想を聞けば、「あんなお姉さん、お兄さんみたい

になりたい」と話してくれました。これこそ子ども会が担う重要な部分ではないかと感じました。

私が所属する頸城村子連(合併前)にはジュニアリーダークラブは、なかった。教育委員会、公民館等のお力添えを頂き頸城ジュニアリーダークラブを結成しました。上部団体の上越地区子連は当時から積極的にジュニアリーダー養成を進めていたので、シニアリーダーや指導員さんの派遣を頂きながら進めていくことができました。お礼申し上げます。

以降、子どもたちの成長に寄り添える事に喜びを感じながらここまで来ました。平成二十二年には、頸城ジュニアリーダークラブが全国表彰を頂きました。自分ごとのように嬉しかったのを覚えています。

当時の子どもたちが社会人として活躍している姿を見ると続けていて良かったなあと感じます。ひとえに活動を理解して支えてくれた妻と家族のお陰だと感じています。ありがとうございます。

最後に県子連役員さんのご健康とご活躍をお祈り致します。

この度は表彰頂き本当にありがとうございました。

子ども交歓大会のようす

上越地区子ども会

上越地区

頸城ジュニア・リーダークラブ

中学二年 笠原 結夏

私は、この上越地区子ども会交歓大会でたくさんことを学びました。

一つ目は、計画することの大変さ、大切さです。子どもたちが何をしたら楽しく活動できるか、安全に活動できるかを考えながらお金の問題なども含めて計画するのはとても大変でした。

二つ目は、準備についてです。準備と言っても私たちは問題を紙に書いてみるだけでしたが、その裏ではいろいろな人がしおりを作ったり青少年自然の家に話をつけてくれたりしてくれた人たちがいるので本当にありがたかったです。

三つ目は、当日の活動です。基本的に計画通りに進んだけれどちょっとしたハプニングなどもあって大変でした。でもみんな楽しんでくれたのでよかったなと思いました。

初め参加したみんなはきんちょうししていたのか口数が少ない子がほとんどでしたが最後の方ではみんな仲よくしていても楽しそうにしゃべっていたので良かったです。

私は今回参加して、たくさんのお話を学びました。この学んだ事はこれからの活動などに生かしていきたいと思いました。

中越地区

こどもフェスタ&遊びのひろばに参加してみよう

上条地区子ども会

六年 高橋 真美

私たち、上条地区子ども会は、一年の行事の一つとして、このイベントに参加しました。コミセンのバスを借りて、西山まで親子で行きました。そこで、いろいろな体験をしました。

いきいき館について、まず、キズナピクスとドッチビーをしました。上学年はドッチビーをして、低学年は、親子でキズナピクスをしました。それぞれ、汗をかくほどやっていました。

キズナピクスがおわったころ、私は友達とうどんを食べました。味が甘



じょうぶくておいしかったです。

その後、工作をしました。きらきらしゃぼん玉やバルーン、竹とんぼ、おりがみでバラ作り、こまを作りました。短時間でこれだけ作れました。家でも作れるものがあつたので、今度作りたいと思いました。すごく楽しい一日でした。

私は、今年で子ども会を卒業します。今度も楽しいイベントを考えて、楽しんでほしいです。

各コーナーで遊んでみて

荒浜小学校

五年 山中 陽向

私は、動物コーナーとドッチビーコーナーへ行きました。



最初に動物コーナーに行きました。ヤギがかわかったです。しば犬がかわかったです。ウマもかわかったけどびっくりしました。欲をいえば、うさぎやひよこなど、小さくてふれあえる動物がふえたらよかったです。あと、係員さんがとてもやさしくて接しやすかったです。

次に、ドッチビーコーナーへ行きました。

ドッチビーは、的にあてるのがとても楽しかったです。動物コーナーといっしょで係員さんがやさしかったです。ただ、的にあたると、たまに、はずれないパネルがあつたので、はずれやすくしてほしかったです。

どのコーナーもとてもたのしかったです。来年もやってほしいです。

下越地区

世界で一つしかない
メルヘン・キャンドルを
つくる

下越地区子ども会連絡協議会

会長 近藤 義衛

新潟市西蒲区角田浜は気候や土壌がフランスのボルドーの地形に似ているという。ワイナリー（葡萄酒醸造所）の観光施設カーブドッチに隣接する全国のガラス工芸作家の作品が展示している「ガラスのメルヘン美術館」においてメルヘン・キャンドル体験講座に参加者二十六名で地区子ども会交歓会を開催しました。

親子や兄弟姉妹がガラス工芸を通して語らう機会や角田山麓の自然環境を満喫してもらう目的です。十一月十六日（日）当日は冬の到来を待つように紅葉の木々はめづき姿を失っていました。

講師松田尚子さんからは、ガラス工芸をはじめた動機やガラス工芸の魅力やガラス工芸作家が作品をつくっても必ずガラスが割れる箇所があることなど工芸の難しさも語っていただきました。その後、講師の指導でガラスのコップにカラーサンドを敷き締め、カラフ



ルな石をならべてワックスでかためるキャンドル作りを行いました。メルヘン・キャンドル体験講座に参加した子どもたちの感想です。

「キャンドル作りは初めてでしたが、友だちと楽しめたので良かった」、「店長の『ちこ』という猫とも遊べて楽しかった。今度するときは、もつとビー玉をたくさんいれてキャンドルをつくりたい」、「とてもすてきなキャンドルができてクリスマスが楽しみです。でも、もつたなくて火がつけれません」など初めてのガラス体験講座を楽しんでいました。

帰宅後、食事中に講座体験したことについて家庭で語らいが起きてほしいと思っていました。

佐渡地区

「親子で楽しむ
子ども会活動を
目指して」

佐渡市子ども会連絡協議会事務局

渡邊 一哉

佐渡市子ども会連絡協議会で、「親子で楽しむ子ども会活動」をテーマに今年度二つの事業に取

り組みました。

ひとつは六月二十八日に「こどもの遊びのひろば二〇一四」を金井コミュニティセンターで開催しました。前回、県子連事業が大好評だったことから市子連として取り組んだものです。

市子連理事や一般ボランティアスタッフ協力のもと、絵手紙、バルーンアート、積み木、紙コップロケット、ジオパーク体験、落書きコーナーなどの遊びのコーナーのほか、新たに読書読み聞かせボランティアによる絵本紹介コーナーも用意し、多くの親子連れが読み聞かせを体験し、一緒に楽しめるよう企画しました。また、新潟県子ども読書推進事業「サトシンさんおはなし会」も同会場で開催し、関係機関や団体との連携も図ることができました。

当日は、保育園の年長から小学生低学年の子どもを中心とした親子約二五〇人の参加があり、時には一緒に歌ったり、大きな笑い声がおこったり、とても楽しいひとときとなりました。

ふたつめは十一月二十九日に「第三回おとなわとび大会」を両津総合体育館で開催しました。このイベントは、仲間と同じ目標に向かって達成する喜びや、体力作りをしてもらうことを目的に開催していますが、募集前から前回出場の子どもの会から申し込みの問い合わせがあるなど、チームが一丸となって燃えてい



ることが感じ取れました。

大会当日は、十二チーム一六〇人の子どものほか、参加チーム引率者や応援の保護者からの有志による二チーム三十人に参加を呼びかけ、大人も三分間の跳躍に一心不乱に挑戦し、多くの保護者の応援で会場は熱気に包まれました。

参加チームも、地区子ども会単位だけでなく、同学年だけのチームやスポーツクラブチームなど、クラスや学校の垣根を越えた参加となり、子どもたちは揃いのユニホームやサポーターを身につけ、チームを鼓舞するメッセージ横断幕が掲げられるなど、参加チームのこの大会にかける意気込みが感じられました。

三回目の大会を開催して変化を感じたことは、参加チームのマナーが素晴らしいことでした。相手チームの挑戦中には、「がんばれー」と声援を送ることはもちろん、声を揃えて大きな声で跳躍回数を数えてあげることも、また、自らが跳躍終了後には、応援してくれた相手チームや観客に対し一礼をするなどの微笑ましい姿勢が見られ、参加した全ての子どもがチームワークの大切さや、かけがえのない仲間との絆を感じることができたように感じました。

大人も子どもも無心で遊ぶ一日となり、子どもにはテレビゲームだけではない遊びの楽しさを知ってもらい、親子で一緒に楽しむことの大切さと親子の絆を実感してもらうイベントを行なうことができました。

シニアリーダー研修会

シニアリーダー

研修会に参加して

長岡市子連リーダーズクラブ

宮 加寿美

「J」は各地区の大会があるので中央大会は来年で降も行うつもりはありません。その代りに、Jを育てられるSを増やしていくためにシニアの研修会を行います。」

全子連副会長の言葉で始まったシニアリーダー研修会。全子連初のシニアリーダーの研修会という事でとても期待していましたが、開始直後に衝撃を受けました。

基調講義では、「J」として何かをやる側から「S」として教える、サポートする側」として大切な部分の話が聞けて、シニアリーダーとしてのこれからの立ち位置を考え直すきっかけになりました。

一番濃く充実した時間は二日目の分科会でした。二日目の朝初めて顔合わせをした班で、テーマ決めからまとめまでを行いました。時間が短かったため話し合いが駆



け足になってしまいました。限られた少ない時間の中でテーマも内容も各班でという事だったのでシニアリーダーの定義やJとの関わり方等深い話し合いができていました。ですが講評時に「来年の開催はどうするのか、どこでやるかを話し合ってほしかったのにその話をした班がありませんね。あなたたちにはがっかりです」と言われても：と正直考えてしまいました。基調講義や情報交換会でもとても勉強になることが聞けましたが、基調講義を四つ行うよりもディスカッションの時間を設けたり、もう少し時間配分等を考えて欲しかったです。

参加してからシニアリーダーとはどのような存在なのか考える日々です。ここで得た知識を長岡でも生かせるよう頑張るとともに、今年もシニアリーダー研修会の開催が決まり、全国のSの実行委員が話し合いを進めているので、シニアにとってより良い研修会になるよう私に出来る事は手伝っていかうと思っています。

そして、研修会というより交流がメインになっているように感じる関フロも、次回新潟に帰ってきた時に三年前より良い研修会になるようJのサポートをしていきたいと思っています。

— 地域に根づいた活動のために —

妙高市シニアリーダーズクラブ

日野 稜馬

昨年九月二十日から二十一日まで、国立オリンピック記念青少年総合セン

ターにて、シニアリーダー研修会が開催されました。本研修会は初開催であり、その内容などにおいて、不安な点がいくつかありましたが、総合的にみて、有意義な時間を過ごすことができました。

はじめに、シニアリーダーとして活躍する全国のみなさんとお会いし、語らうことができたというのが、自分にとって何よりの収穫でした。活動が順調な地区も、何らかの問題を抱えている地区も、外部からの視点というのは、意外な気づきを与えてくれるものであり、またヒントとなり得るものです。その意味で、他地区の方に提案する一方、私もアドバイスをいただき、大きなヒントを得ることができたように思います。今後、得られたヒントを本県の子ども会活動に還元し、その発展に資するよう努力していきたいと考えている次第です。

さて、本研修会は初開催ということもあり、課題が多かったのもまた事実でした。たとえば分科会の時間が短かったことは、その一例です。本研修会の開催目的が「シニアリーダーを全国的な組織として位置づけ、その育成の充実を図る」というものである以上、シニアリーダーへの指導はもちろんですが、主体的な課題解決のための時間や、そ



の提言および共有のための時間が、十分に確保されるべきだったと振り返っていました。

また、「シニアリーダー」の統一名称を論結するところが、あ

る種目的化してしまっていたことも、私の中では腑に落ちないことのひとつでした。周知の通り、その名称は全国的に統一されているわけではありません。それについて、本研修会を機に、統一したいという思いがあったようですが、個人的にそれはなかなか困難なことだと感じています。と言つもの、子ども会の活動は、地域と密接に結びついていることが多く、名称を急に変更することは、現実的な選択肢ではないと考えているからです。

重要なことは、その名称でも、在り方でもなく、いかにその地域に寄り添い、実情にあった活動ができるかという一点に、集約されると思います。今後の研修会においては、その本質を忘れてはならず、特に次回の研修会においては、今回の参加者の声が十分に生かされることを期待して、私の報告といたします。

平成27年度 第40回新潟県子ども会連絡協議会総会案内

I 総会について

期 日 平成27年 5月17日 (日)
 時 間 12時30分～16時00分
 会 場 南魚沼市塩沢公民館
 TEL 025-782-0100

II 遊びの広場

主 催 新潟県子ども会連絡協議会
 共 催 南魚沼市子ども会連絡協議会
 日 程 ・受 付 12時30分～13時30分
 ・遊びの広場 12時30分～15時30分

<開会式次第>

- 1 開会のあいさつ
- 2 会長あいさつ
- 3 表 彰 県子連表彰
 - (1) 指導者・育成者
 - (2) ジュニア・リーダー
 - (3) 子ども会
- 4 祝 辞 県生涯学習推進課
南魚沼市
- 5 来賓紹介
- 6 謝 辞 表彰者の代表
- 7 閉会のあいさつ
=休憩=

H26年度総会 開会式



平成26年度 <遊びのひろばのスナップ>



妙高市文化ホールにて



魚沼市立堀之内公民館にて

<総会次第>

- 1 開会のあいさつ
- 2 議長選出
- 3 議長あいさつ
- 4 議 事
 - (1) 平成26年度会務並びに事業報告について
 - (2) 平成26年度会計決算報告及び監査報告について
 - (3) 平成27年度事業計画(案)について
 - (4) 平成27年度予算〈通常・安全共済会〉(案)について
 - (5) 平成27年度県子連理事選出等について
 - (6) 新役員あいさつ
 - (7) その他
- 5 議長退任
- 6 次期開催地子連会長あいさつ
- 7 閉会のあいさつ

平成27年度 県立青少年研修センター イベント一覧

新潟県立青少年研修センター

〒953-0012

新潟市西蒲区越前浜5597-1

TEL: 0256-77-2111

FAX: 0256-77-2114

URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/seisyounen>

イベント名		期 日	内 容	対象・定員
青研スキルアップ セミナー	第1回 「レクリエーション」	4/19 (日) 日帰り	基礎的なレクリエーション指導を研修し、望ましい人間関係の在り方について学びます。	18歳以上の方(高校生は除く) 第1回30人 第2回20人 第3回30人
	第2回「野外活動」	5/9 (土)～10 (日) 1泊2日	自然にふれあう楽しさを体験しながら、安全な野外活動の基本的な知識・技術を身につけます。	
	第3回 「グループワーク」	11/14 (土)～15 (日) 1泊2日	人間関係能力の向上を図るためのグループワークトレーニングなどの手法を体験的に学びます。	
あつまれ! 家族王国	第1回 「親子で体験・みんなで発見・夏だぜ青研」	7/18 (土)～19 (日) 1泊2日	海辺の活動やキャンプファイヤーなどをおして、家族・親子の絆を深めます。	家族親子(子どもは小学生以上) 各回60人
	第2回 「親子で体験・みんなで発見・秋こそ青研」	10/17 (土)～18 (日) 1泊2日	秋の農業体験やハロウィーン活動などをおして、家族・親子の絆を深めます。	
	第3回 「親子で体験・みんなで発見・冬なら青研」	2/20 (土)～21 (日) 1泊2日	昔ながらの伝承体験やクラフト(工作)などをおして、家族・親子の絆を深めます。	
物づくり体験塾 in 越前浜	第1回「植物染め体験1 ～バッグのマツヨイグサ染め～」	10/4 (日) 日帰り	当センター近隣で活躍されている芸術家や工芸作家から直接指導を受け、物づくりの楽しさを味わい、参加者同士の交流をも深めます。	県民一般 (小学生以上) 各回30人
	第2回「植物染め体験2 ～ハンカチのザクロ染め～」	11/29 (日) 日帰り		

平成27年度 新潟県少年自然の家 イベント一覧

新潟県少年自然の家

〒959-2602 胎内市乙字大日裏

TEL 0254 (46) 2224

FAX 0254 (46) 3070

<http://www.pref.niigata.lg.jp/shizen/>

わかよく
たのしく
けんきょく



(少年自然の家のマスコット)

イベント名		期 日		内 容	会 場	募 集 人 員
自然・ふれあい! 家族のつどい!	I	4月18日(土) 19日(日)	一泊	もちつき・クラフト イチゴ狩り、自然散策	新潟県 少年自然の家	各回とも 小中学生を含む 家族25組 (70名程度)
	II	9月 5日(土) 6日(日)		カヌー・釣り 野外炊さん		
	III	12月 5日(土) 6日(日)		パーティー料理作り リース作り		
チャレンジ! わんぱく!	①	8月 1日(土) 2日(日)	一泊	カヌー、星空観察 野外炊さん	新潟県 少年自然の家	県内 小学4～6年生 70名程度
	②	10月 3日(土) 4日(日)		登山 野外炊さん		
	③	1月30日(土) 31日(日)		賽の神、もちつき スキー		
カヌーに 親しもう!	(1)	8月 8日(土) ① 午前の部 ② 午後の部	日 帰 り	親子でのカヌー体験	胎内川 河口カヌー場	各回とも 小学4～中学生 を含む家族 30名
	(2)	8月 9日(日) ① 午前の部 ② 午後の部				

平成26年度 市区町村別加入状況一覧表

(H27. 1. 31現在)

上越地区⑫ 2市

市町村名	幼	小	中	高	子ども計	育成者	大人計	合計	団体数
1 上越市	58	4,727	600	2	5,387	2,004	2,004	7,391	152
2 (安塚)	0	70	43	0	113	36	36	149	4
3 (大島)	4	45	38	1	88	92	92	180	11
4 (大潟)	13	240	39	0	292	107	107	399	4
5 (板倉)	32	288	24	6	350	287	287	637	13
6 (吉川)	7	77			84	86	86	170	4
7 (柿崎)	7	75	25	4	111	84	84	195	4
8 (三和)	7	55			62	51	51	113	6
9 (頸城)	16	419	98		533	414	414	947	11
10 (名立)	1	75	39		115	83	83	198	7
11 (清里)	14	152			166	121	121	287	15
12 妙高市	27	497	58	3	585	383	383	968	21
地区合計	186	6,720	964	16	7,886	3,748	3,748	11,634	252

中越地区⑪ 8市

市町村名	幼	小	中	高	子ども計	育成者	大人計	合計	団体数
1 長岡市	571	9,738	191	18	10,518	7,437	7,437	17,955	393
2 (中之島)	6	491	20		517	210	210	727	34
3 (小国)	12	178	102		292	264	264	556	20
4 柏崎市	55	3,619	93		3,767	1,565	1,565	5,332	138
5 見附市	159	1,901	124	7	2,191	2,232	2,232	4,423	101
6 加茂市	117	672	373	90	1,252	1,642	1,642	2,894	35
7 十日町市	40	589	30	1	660	427	427	1,087	40
8 三条市	15	149	15	6	185	82	82	267	6
9 南魚沼市	55	611	66	5	737	548	548	1,285	30
10 魚沼市(小出)	3	156	0	0	159	35	35	194	4
11 (湯之谷)					0		0	0	
地区合計	1,033	18,104	1,014	127	20,278	14,442	14,442	34,720	801

下越地区⑦ 5市 1村

市町村名	幼	小	中	高	子ども計	育成者	大人計	合計	団体数
1 新潟市	221	7,553	235	10	8,019	2,757	2,757	10,776	276
2 新発田市	28	1,620	148	2	1,798	539	539	2,337	44
3 阿賀野市	18	303	8		329	196	196	525	17
4 胎内市	63	940	1		1,004	655	655	1,659	53
5 弥彦村	6	456	5		467	208	208	675	17
6 燕市(吉田)	20	718	0	0	738	393	393	1,131	24
7 (分水)	50	194	2		246	238	238	484	12
地区合計	406	11,784	399	12	12,601	4,986	4,986	17,587	443

佐渡地区① 1市

市町村名	幼	小	中	高	子ども計	育成者	大人計	合計	団体数
1 佐渡市両津	9	475	22	10	516	244	244	760	45
佐和田	4	70			74	17	17	91	2
金井	0	356	148	0	504	116	116	620	14
新穂	0	168	106	0	274	59	59	333	16
羽茂	0	66	21	0	87	24	24	111	5
赤泊	16	92	28	10	146	73	73	219	11
相川	36	120	45	43	244	58	58	302	11
真野	24	240	46	2	312	168	168	480	17
畑野	21	175	22	0	218	49	49	267	6
小木	13	74	54	28	169	74	74	243	16
地区合計	123	1,836	492	93	2,544	882	882	3,426	143

1 県子連					0	40	40	8,800	1
-------	--	--	--	--	---	----	----	-------	---

合計	1,748	38,444	2,869	248	43,309	24,098	24,098	67,407	1,640
	幼	小	中	高	子ども計	育成者	大人計	合計	団体数

県子ども会連絡協議会 E-Mail n-kodomo@sage.ocn.ne.jp

編集発行 新潟県子ども会連絡協議会
 全子連安全会新潟県支部
 〒九五一一八三三
 新潟市中央区白山浦一三〇〇
 電話 〇五一一三〇一五九八
 FAX 〇五一一三〇一五九二

〇すっかり春の陽射しになってきました。草木も芽を出し、子どもたちと一緒に新学期です。
 〇平成二十七年は関プロ育成研と全国子ども会中央会議(全子連創立五十周年記念事業)が合同開催となります。十月に群馬県伊香保町で開催されます。新潟県からもたくさん参加しましょう。
 〇県子連だよりの発行に当たり原稿をお寄せ下さいました皆様に御礼申し上げます。(文責:板垣)

あ
と
が
き

◆ 当面の予定 ◆

- ・ 4月17日(金) 全子連事務担当者会議
- ・ 5月17日(日) 県子連総会
- ・ 5月28日(木) 全子連定例総会
- ・ 6月 7日(日) 県子連第1回理事会
- ・ 6月12日(金) 県子連だより
第117号発行
- ・ 6月20日(土)～21日(日)
県子連第1回JL中級研修会